

経営者の意識喚起につながる！

事業承継の準備を促す こんな声かけを してみよう

事業承継の準備について、経営者の意識を喚起するための13のトークを取り上げ、会話例と効果を解説する。

- ①～④ 金指光伸
多摩信用金庫
- ⑤～⑬ 価値創造事業本部
営業店支援部 法人支援グループ

声かけ① 人気のプロ野球チームでも
若手の監督が多く
なっていますね



60歳代以降の社長は、Jリーグではなく、プロ野球を見て育った人が多いので、プロ野球の話題は、「鉄板ネタ」となる。プロ野球の監督は、選手という人材を使って勝利という結果を求められる点で、会社の経営者と共通点がある。そこで、プロ野球の世界で世代交代が起こっていることを話題にしているのが、本トーク例である。

キーワードは「世代交代」

ジャイアンツファンの社長であれば、高橋監督が現役選手からコーチを経験することなく、昨年、41歳で監督に就任したことを知っている。社長の多くは「後継者候補である息子はまだ修行が足りない」と口にするが、高橋監督は、立派に監督を務めている。さらに、ふと気づくと、名監督

の野村克也さんも星野仙一さんも引退して、60歳代の監督は二人だけだ。この話題によって、「世代交代」というキーワードが導かれる。このトーク例では、社長からその言葉を口にして、「とまれ、次は「御社はどうなのか」と言う声かけにつながる。

▼こんな流れで会話してみよう

担当者：人気のプロ野球チームでも若手監督が多くなっていますね
経営者：私はジャイアンツファンなんですが、高橋監督は42歳だからね。若いよなあ
担当者：そうですね。今、60歳代の監督は中日の森監督と楽天の梨田監督の二人だけなんですよね
経営者：世代交代が起きているということだな。野村さんも星野さんも辞めちゃったものなあ
担当者：御社でも世代交代の動きはあるのですか？

声かけ② 社長のご友人にもやはり
第一線で活躍されて
いる方が多いのですか？



社長「後継者にバトンタッチする」ことを決断する材料の一つに「同年代の経営者の引退」が挙げられる。新聞に載った大手企業の社長の引退や、同時期に切磋琢磨してきた友人社長の引退などだ。

他社の事業承継を話題に

当然だが、年を取れば同年代の社長は減っていく。そこで、それを話題にする。この問いかけに対する社長の答えは、高い確率で「少ない」である。「多いよ。まだまだみんな元気だからね」ということであれば、無理に事業承継の話をするよりも、今後の事業展開の話を開けばよい。

ここでは「少ない」という答えなので、「社長は若い」というフリを経て、友人社長が息子に社長の座を譲った事例を話題にしてい

る。いわば親友が引退した話なので、社長は「次は私かな」「うちもそろそろだ」と考えている。このトーク例は、社長の口からそれを言わせているので、「では、いつ頃お考えなのですか」などと深掘りする質問がしやすい。

▼こんな流れで会話してみよう

担当者：社長のご友人にも、やはり第一線で活躍されている方が多いのですか
経営者：いや、私も今年で70歳の台だからね。だんだん少なくなってきたよ
担当者：私の父親は60歳代ですが、社長のほうがずっとお若いです。でも、確か昨年、社長の座を息子さんに譲られた××社の××社長とは、同級生とおっしゃっていましたよね
経営者：そうなんだ。私もそろそろだなと思ってはいるんだよ

声かけ③ ご趣味のゴルフには
変わらず毎週行かれて
いるのでしょうか？



社長「長の中には、ゴルフが趣味という人が多い。スポーツをやっている人は、「若い頃のプレー」と今のプレーを比べるの

後継者の話題に誘導する

ここでは、「落ちた」という答えが返ってきている。そこで、担当者は「息子さんのほうが飛ばす」という話題に誘導している。社長の得意分野であるゴルフの世界では、すでに息子が勝っているという事実を導くことで、事業承継の話題につなげられる。

▼こんな流れで会話してみよう

担当者：ご趣味のゴルフには変わらず毎週行かれていたのですか？
経営者：いや、さすがに最近は、月に2回くらいだよ
担当者：社長はドライバーの飛距離がすごいとお聞きしましたが…
経営者：最近は飛はなくなっちゃってね。寄る年波には勝てないよ
担当者：では、息子さんのほうが飛ばされるんですか？
経営者：ああ、完全に負けるよ